

いずみ会は規約に沿って、次の事業を実施した。

第1. 定時評議員会

いずみ会の最高議決機関である定時評議員会を平成30年6月2日（土）に母校食堂で開催した。評議員は開会時72名（最終85名）出席し委任状提出者190名を加え262名となり定足数183を満たし評議員会は成立した。平成29年度事業報告、規則改正、平成30年度事業計画案を承認し、新役員を選任した。

第2. 理事会、監査会等の活動

1. 平成30年度は、理事会を11回、監査会を2回開催した。
2. 理事の負荷平準化および効率化（事務局次長、副部長制の導入など）を図った。

第3. 会報の発行・広報活動の充実

1. 会報いずみ第62号を平成30年10月1日に発行した。主な記事は次の通りである。
 - ・平成30年度評議員会報告
 - ・平成29年度母校キャリア教育
 - ・会員の集い
2. ホームページ (<http://www.izumikai.com/>)
 - ・体育祭、文化祭、卒業式、入学式など母校の行事をタイムリーに報告した。
 - ・まんぼ会などサークル活動案内、同期会案内などを掲載した。
 - ・平成30年度末時点で累計アクセスは昨年度末より10万増え51万を超えた。

第4. 総会

平成30年10月27日（土）122名が出席し母校食堂にて開催した。いずみ会の活動や母校関連事項の報告した。「8の会」の企画運営により「末広がりにつなげていこう大泉」というキャッチフレーズの下、懇親会を開催した。ギターのリードで「みんなで歌おう」という企画で盛り上がりを見せ、最後に「8の会」より「9の会」へ引き継ぎを行った。なお昨年に引き続き総会に先立ちホームカミングデーを実施し、母校の協力を得て、文芸部書道班の書道パフォーマンス、日本文化部の箏曲演奏、合唱部の合唱、吹奏楽部の演奏、華道部の生け花披露があり、吹奏楽部OB/OGの演奏もあった。また、これと並行して学校見学会を行い、いずみ会茶の湯サークルの皆さんから抹茶の接待があった。ホームカミングデー参加の在校生は平成29年度より増え、懇親会にも参加して盛り上がった。

第5. 会員情報の整備

1. 会員情報の整備に向け、平成31年2月に会員情報部会を開催し各期会員情報部幹事の確認、積極的な会員情報活動およびいずみ会個人情報取扱規定の徹底をお願いした。
2. 「高校71期の名簿」を作成し、新会員へ配布した。
3. いずみ会個人情報取扱規定に則って、同期会およびクラス会などの開催を支援した。

第6. 財政管理

1. 会費納入率の向上等の増収対策を今年度の課題としたが、残念ながら会費は前年度比93%、寄付金は前年度比86%といずれも減少した。特に今年度納入分会費は前年度比91%と減少幅が大きく課題を残した。
2. 入会金は母校の協力を得られ92%の新会員が納入したが納入率は3%低下した。
3. 収入全体で見ると予算は達成したが前年度比92%と減少した。
4. 会の財政を改善するために経費節減に努めた。
5. 規則改正に伴いシステムの改修案作成を行った。
6. 会費納入率改善を図る為、対象を41期以降に限定してコンビニ払込を導入した。
7. 従来負債としていた名簿積立金を正味財産に繰り入れた。

第7. 母校及びPTAとの連携

1. 母校の発展に寄与するため、社会人講話、中学生への英語教育、その他の学校諸活動への支援を行った。
2. PTAと協力し、都の指定校を記した3種類の横断幕を寄贈した。
3. 平成30年9月開催の母校文化祭で、いずみ会のPRを図った。
4. 平成31年1月に69期の新成人の集いを母校、PTAと連携し支援した。
5. 平成31年3月に「いずみ会入会式」を開催し、71期194名が入会した。
6. 卒業生全員に記念品を、皆勤賞受賞者15名に副賞を贈呈した。

第8. 人材バンク活動

1. 人材登録様式を見直し、よりきめ細かい人材情報の収集に努めた。
2. 会員相互間における人材活用できる仕組みを検討した。
3. 母校支援に必要な会員情報を層別して、活用しやすいように人材情報を体系化した。

第9. いずみ会の活性化

1. サークル活動に対してホームページを活用して情報提供を行った。
2. 同期会開催時における宛名シール等を作成し支援した。
3. 各部活動の支援およびいずみ会の活性化を図るため、昨年度に引き続き部活動OB/OG会代表との意見交換会を開催した。

第10. 同窓会の輪

平成30年4月および10月に開催された都立高校同窓会連絡協議会に参加し、「連絡協議会の進め方」、「周年行事の課題」、「連絡協議会規約改正案」などを議論した。

以上